

躍進する生長の家社会事業団

SEICHO-NO-IE-SHAKAI-JIGYODAN

創始者谷口雅春先生の願いを正しく受けつぎ、国と社会に貢献する事業を展開しています。

公益財団法人
生長の家社会事業団

〒186-0003

東京都国立市富士見台2丁目39-1

TEL: 042-843-0075 発行人: 久保 文剛

FAX: 042-843-0076 編集人: 佐々木憲彦



新編『生命の實相』全65巻成就の年、今こそ全巻拝読を!!

《今月拝読の御言葉》

谷口雅春先生

笑いを生活に利用すること

動物には完全に与えられていないで人間にだけ完全に与えられている能力に「笑う」と云う能力がある。この能力は人間を不要の緊張より解き放ち、生理作用を順調にし、人と人との摩擦を緩和する潤滑剤のはたらきをするのである。

適時、適切に於ける機智に富んだユーモアある笑いは、人々の心に平和と余裕とを与え、暗い心を引き立てて、明るい方向に感情と想念とを導いて行く実際効果をもつものなのである。

私たちは、もっと適時適切に笑うことを学ばなければならぬのである。自分の心が何となく沈衰して悲観的になっているときには、鏡に向って出来るだけ愉快な顔をして笑ってみることである。

すると何時の間にか憂鬱な気分は取り去られ、実際に愉快になってくる。実際愉快的な気分になって来たなら、よき考えが思い浮かんでくるのである。

(新装新版『真理』第10巻165〜166頁)

輝く令和六年の新春、
— 尊師谷口雅春先生に感謝を捧げ、全巻拝読に邁進しよう!! —

理事長 久保 文剛

新年明けましておめでとうございませう。皆様には輝く令和六年の新春を健やかに迎えたいこと心よりお慶び申し上げます。

本年は新編『生命の實相』全巻成就の年たる意義深い年であります。

聖典『生命の實相』は昭和七年一月一日に初版が出版され今日まで累計約二千万部の永遠のベストセラーであり、多くの外国語にも翻訳出版され、全世界の人々が救われてきました。

昭和20年、大東亜戦争の敗戦に全国民が打ちひしがれる中、谷口雅春先生は「生長の家立教の使命を成就せんが為に」と、祖国再建の大構想である「生長の家社会事業団の設立」を国民に発表されました。

そして深い神慮に基づき、み教えの根幹である聖典『生命の實相』及び聖経『甘露の法雨』と多くの神示等の著作権を生長の家

社会事業団に永遠の基本資産として寄附されたのです。

ところが平成21年、谷口雅春先生の現教団は「事業団は著作権者ではない」と強弁し、『生命の實相』等の発行差止の訴訟を起しました。また、谷口雅春先生は終戦時にそれまでの天皇観・国家観を廃棄されたので『生命の實相 神道篇』(古事記と日本国の世界的使命)の復刊は許さないと主張したのです。

生長の家社会事業団は『生命の實相』を護る正義のたたかきを行い、最高裁判所で勝訴するとともに、谷口雅春先生を学ぶ会及び光明思想社と「新編『生命の實相』奉讃会」を結成し、全国の支援者の尊いご奉讃により、平成24年から新編『生命の實相』の順次刊行及び聖経・神示集等の刊行を行ってきました。

本年いよいよ全65巻成就の年となりました。全巻拝読実践の年です。「声字即実相の神示」には、『生命の實相』こそ「吾が第一の神殿」であると明示されています。聖典『生命の實相』を拝読することは生長の家大神のご神殿に参拝することになるのです。誠にこの十二年間にわたり新編『生命の實相』奉讃会に尊いご献資を賜りました皆様方に感謝するとともに、私達は今こそ全巻拝読運動に邁進しようではありませんか。

文字が大きくなって読みやすくなった 新編『生命の實相』



1日20ページ拝読すると、2年で全巻拝読できます!!

新年の出発は、 そして魂の新生は、

全国練成会から!!

道場の「實相観」

今年(たつじ)は辰年、「龍翔鳳舞(りゅうきやうほうぶ)」の良き年です。谷口雅春先生は新しい年の出発のときこそ「新生」の絶好(きぎょう)の機会であると、次のようにお書き下さっています。

「毎日(まいにち)毎日が新生であるけれども、新年を迎へての新生は「萬事(ばんじ)新た」という人類意識が協力してくれるために、一層私(わたし)たちの「萬事(ばんじ)新生(しんせい)やり直し」の気持(きもち)を澆刺(せうし)として生動(せいどう)させてくれるのである。それこそ「いのちの革命」の絶好(きぎょう)機会の瞬刻(しゅんこく)限であるということができるのである。この瞬刻(しゅんこく)限を看過(みのが)してはならないのである。」(白鳩(しろとび) 昭和43・1要約)

さらに、谷口雅春先生は「新生(しんせい)する」ということは、自分(みづかみ)自身の心が生まれ変わる(かわ)ることだと、次のようにお示し下さっています。

「生れ(うま)変り(かわ)の時(とき)が来た(き)たのである。われわれは自分(みづかみ)自身が先(ま)ず生れ(うま)変(かわ)ることが必要(ひつや)なのである。自分(みづかみ)自身の心が生れ(うま)変(かわ)ることが必要(ひつや)なのである。積尊(しきそん)の説(せつ)かれたごとく、この世界(よ)はことごとく自分(みづかみ)の心の展開(てんかい)であるから、自分(みづかみ)の心が生れ(うま)変(かわ)ることは自分(みづかみ)の環境(かんげい)が一変(いちへん)し、自分(みづかみ)の生活(せいかつ)が一変(いちへん)し、自分(みづかみ)の肉体(りくたい)の健康(けんこう)が一変(いちへん)することを意味(いみ)するのである。」(真理(まこと)の吟唱(ぎんしょう) 138頁)

昨年(こぞ)までの自分(みづかみ)がどうあろうと、この新年(しんねん)から幸福(しんぷく)人生(じんせい)を歩(あ)みましよう。そのため(ため)には、まず(まず)この「全国練成会(ぜんこくれんせいかい)」に参加(さんか)加(か)して、光明輝(くわうめい)く神(かみ)の生命(せいめい)に生(な)まれ変わ(かわ)ること(こと)です。

第六(だいろく)回の全国練成会(ぜんこくれんせいかい)にゲスト講師(こうし)でお願い(ねが)い下(くだ)された、元長崎(もとながさき)・佐賀(さが)教区(きょうく)の教(きょう)部(ぶ)長(ちやう)として総本山(そうほん)練成課長(れんせいか)を歴任(れきん)された板垣(いたがき)雅勝(みやかつ)先生(せんせい)は、この全国練成会(ぜんこくれんせいかい)こそ、生(な)長の家(か)の「正(ただ)当(とう)な本(ほん)格(かく)練成会(れんせいかい)」であると、感動(かんとく)の一文(いちぶん)をお寄(よ)せ下(くだ)さいました。

「谷口(やぐち)雅春(みやかつ)先生(せんせい)報恩(ほうおん)全国練成会(ぜんこくれんせいかい)」に招(まね)き、はじめての場所(ばしょ)だったにもかかわらず、何か「なつかしい」という感情(かんじ)が湧(わ)き上が(あ)りました。

それは名(な)のとおり、ここには谷口(やぐち)雅春(みやかつ)先生(せんせい)がご指(さ)導(どう)された通り(どおり)の愛(あい)にあふれた「生(な)長の家(か)」があつた(あ)ります。「浄心(じやうしん)行(ぎやう)」「先祖(せんぞ)供養(きやう)祭(まつり)」「祈(いの)り合(あ)いの神(かみ)想(さう)観(くわん)」「生(な)命(めい)の實(じつ)相(さう)」を中(な)心に聖典(せいてん)を使(つか)つての各(ご)講(こう)話(わ)。そして「神(かみ)想(さう)観(くわん)の練(れん)習(じゆ)」、「笑(わら)いの練(れん)習(じゆ)」、「聖歌(せいこ)合(あ)唱(じやう)」。さら(さら)に充(み)実(じつ)した「よろこびの座談(ざだん)会(かい)」、「個(こ)人(にん)指(さ)導(どう)」。後世(こうせい)に伝(つた)へるべき感動(かんとく)の生(な)長の家(か)のホンモノ(ほんもの)の「正(ただ)当(とう)な本(ほん)格(かく)練成会(れんせいかい)」がここ(こ)にあり(あ)りました。

皆(みな)様(さま)、是非(ぜひ)この全国練成会(ぜんこくれんせいかい)に参加(さんか)し、この年(とし)を繁榮(はんえい)と健康(けんこう)と調和(てんわ)の世界(よ)がひらく幸福(しんぷく)の年(とし)といた(いた)しまし(ま)しよう。

新春！全国練成会のご案内
令和6年2月2日～4日
最高の講師が勢揃い、是非ご参加を。
《ゲスト講師》

安東 巖 先生・花田 研 先生

《その他講師》久保文剛・熊本司・上野耕治
國弘昭義・岡村佳明・木下千鶴子・井関隆文
※詳細は同封のチラシをご覧ください。

感謝の先祖供養

まぶつろの「霊牌供養」に励みましよう!!

生(な)長の家(か)独特(とくどく)のお祀(まつ)りである「霊牌(れいはい)供養(きやう)」は、「霊牌(れいはい)」という所定(しよてい)の紙(かみ)にご先祖(ごせんぞ)の方(かた)々の名(な)前(なまへ)を書(か)き、聖経(せいけい)『甘露(かんろ)の法雨(ほふう)』で供養(きやう)する(する)もの(もの)です。これ(これ)によつて、脳腫瘍(のうしゆやう)が治(な)った体験(たいけん)、商売(しょうばい)が繁盛(はんせい)した体験(たいけん)、子供(こども)が素晴(すはら)しくな(な)った体験(たいけん)、家庭(かてい)が調和(てんわ)した体験(たいけん)等(とう)数限(かずかぎ)りなくあり(あ)ります。新しい年(とし)の出発(しゅつぱつ)にあたり、心新(こころ)たにまぶつろの霊牌(れいはい)供養(きやう)に励(む)ま(ま)し(ま)しよう。

私達と御先祖さまの

個生命は不死不滅

熊本 司(第2回)

前(ま)回は、祖先(せんぜん)の靈(たま)の祭(まつ)祀(い)の事(こと)を思(おも)い浮(う)べることがあつたり、気(き)にかか(か)つたりする(する)ならば、それは祖先(せんぜん)(亡(な)れ)父母(ふぼ)を(を)含(も)む)自身(みづかみ)の祭(まつ)祀(い)して貰(もら)いたい意(い)識(し)があ(あ)なた(なた)の意(い)識(し)の中(な)に織(お)込(こ)ま(ま)れて(れて)いる(いる)から、すぐ(すぐ)に祀(まつ)つてあ(あ)げ(げ)たら(ら)い(い)とい(い)う(う)谷口(やぐち)雅春(みやかつ)先生(せんせい)の御教(ごきょう)えを述(た)べ(べ)ました(ました)。

今(いま)回は、亡(な)くなら(ら)れた(れた)方(かた)々(々)への供養(きやう)の根(ね)拠(こ)について学(ま)びたい(たい)と思(おも)います(います)。

谷口(やぐち)雅春(みやかつ)先生(せんせい)は、ご著書(しやくしょ)新編(しんぺん)『生(な)命(めい)の實(じつ)相(さう)』第一(だいいち)巻(まき)で次(つぎ)のよう(よう)に教(きょう)えてお(お)られ(ら)れます(ます)。

「深(こ)く吾(われ)々の「生(な)命(めい)」の本質(ほんしつ)を直観(ちくくわん)的に掘(ほ)りさ(さ)げ(げ)て行(い)きます(ます)れば、吾(われ)々の「生(な)命(めい)」は肉(にく)体(たい)が死(し)んでも死(し)な(な)ない、生(な)きとお(お)し(し)の(の)もの(もの)である(である)とい(い)う(う)こと(こと)が解(わか)つてき(き)ます(ます)」(9頁(げい)13行(ぎょう)～10頁(げい)2行(ぎょう))

「吾(われ)々の生(な)命(めい)が生(な)きとお(お)し(し)である(である)とい(い)う(う)意(い)味(み)には二(に)つ(つ)あり(あ)ります(ます)。吾(われ)々の生(な)命(めい)は宇宙(うちゅう)の大(だい)生(せい)命(めい)の支(し)流(りゅう)であ(あ)つて、宇宙(うちゅう)の大(だい)生(せい)命(めい)に生(な)か(か)さ(さ)れて(れて)いる(いる)。さら(さら)にも(も)つと適切(てきせき)にい(い)います(ます)れば、宇宙(うちゅう)の大(だい)生(せい)命(めい)の流れ(ながれ)と一(いっ)緒(じょ)にな(な)つて流(なが)れて(れて)いる(いる)ので

あります。」(10頁(げい)4行(ぎょう)～7行(ぎょう))

また、私(わたし)達(たち)の個(こ)生(せい)命(めい)も不(ふ)死(じ)不(ふ)滅(めつ)である(である)こ(こ)とを、

「「生(な)長の家(か)」では単(ただ)に哲(てい)学(がく)的(てき)に肉(にく)体(たい)死(し)後の生(な)命(めい)が大(だい)生(せい)命(めい)へ復(た)帰(き)しての不(ふ)死(じ)を理(り)屈(くつ)づけて考(こう)える(える)だけ(だけ)ではな(な)く、靈(たま)界(がい)通(つう)信(しん)の事(こと)実(じつ)によ(よ)つて、「個(こ)人(にん)に宿(すく)る生(な)命(めい)の不(ふ)死(じ)」を(を)も信(しん)ず(ず)る(る)のであ(あ)ります(ます)。」(13頁(げい)2行(ぎょう)～4行(ぎょう))と説(せつ)か(か)れて(れて)お(お)られ(ら)れます(ます)。

すなわ(わ)ち、私(わたし)達(たち)がこ(こ)の地(ち)上(じやう)に生(な)きて(きて)いる(いる)間(ま)も、死(し)して肉(にく)体(たい)が滅(めつ)んでも、私(わたし)達(たち)の個(こ)生(せい)命(めい)は大(だい)生(せい)命(めい)と生(な)きて(きて)いく(いく)とい(い)う(う)こ(こ)とが生(な)長の家(か)の教(きょう)え(え)であり(であり)、これ(これ)が私(わたし)達(たち)が先祖(せんぞ)供養(きやう)する(する)根(ね)拠(こ)な(な)のです(す)。

私(わたし)達(たち)がし(し)ばし(ば)仏(ぶつ)壇(だん)や神(かみ)棚(たな)の前(まへ)で読(よ)誦(じゆ)する(する)聖(せい)経(けい)『天(てん)使(し)の言(ごん)葉(えつ)』の中(な)にも(も)、「肉(にく)体(たい)を去(さ)り(り)た(た)る「念(ねん)」は、その念(ねん)の力(ちから)にてな(な)お(お)一(いっ)つ(つ)の個(こ)性(せい)を持(も)つ(と)つし、幽(ゆう)界(がい)に於(お)いて生(な)活(かつ)をつ(つ)づ(づ)け(け)ん。汝(なんぢ)らの靈(たま)魂(こん)と称(しょう)する(する)もの(もの)是(こゝ)れにして(して) (以下(以下)略(りやく))」

と、私(わたし)達(たち)の個(こ)生(せい)命(めい)が永(えい)続(ぞく)する(する)と説(せつ)か(か)れて(れて)あ(あ)ります(ます)。

私(わたし)達(たち)は、個(こ)性(せい)は不(ふ)死(じ)であり(であり)、大(だい)生(せい)命(めい)と共(とも)に生(な)き続(ぞく)けて(けて)いく(いく)こ(こ)とを信(しん)じて(じて)、私(わたし)達(たち)とご先祖(ごせんぞ)様(さま)の靈(たま)の向(むか)上(じやう)につ(つ)なが(なが)る(る)、喜(よろこ)びの先祖(せんぞ)供養(きやう)を日(ひ)々(じつ)実(じつ)践(けん)して(して)ま(ま)い(い)り(り)ま(ま)し(し)よう(う)。

「生長の家」教義実践講座 み教えの深義と「光明生活」行を学ぶ（東海会場に81名）

装い新たに出発した「生長の家」教義実践講座を、首都圏（受講者135名）、近畿（受講者143名）に続き、東海で開催（11月18日・19日）。名古屋のTKP会場に、東海ブロックを中心として13都府県から81名の受講者が参集しました。

8名の講師陣より、み教えの中でもとりわけ大切な、①人間神の子の真理、②唯心所現の原理、③神想観の本義、④先祖供養の本義、⑤天皇后日本の本義について深く学び、さらに、み教えを日々の生活に生かす、①心が浄まる神想観、②日々が輝く六つの光明生活、③守護をもたらす先祖供養の実践法を体得して、谷口雅春先生の御教えを現代の生活に生かす喜びに、魂が躍動する素晴らしい研修会となりました。また、本講座において新たに11名の講師が誕生しました。



講師・受講者、皆よろこびに満ちて（第1日目、記念撮影）

受講者の感想文より

教団に残っている方々を訪問し
谷口雅春先生の御教えを伝えま

永田 由紀子（富山県）

すべての講座を聞いて、ひしひしと心に響きわたりましたのは、谷口雅春先生の『日本国実相顕現のため』、『人類光明化のため』の切なるお祈りのお声、お姿でした。又、谷口雅春先生のみに従われ、祈られ、真摯に歩まれた谷口輝子先生の尊いお姿でした。

これからの日々は、真に「明るい心」「感謝の心」を行はる。その上に三正行を実践して、谷口雅春先生、谷口輝子先生の生まれし尊い「道」に従わせていただくことを心に銘じて、一步一步を堅信の道とさせていただけます。生長の家の御教えによって多くの体験をいただき、救われてきたご恩返しのためにも、今回受講した喜びを「力」として、ご縁があった方々、特に教団

に残られているお一人お一人を確実に訪問して、谷口雅春先生の御教えをお伝えすることを決意しております。

愛無限、感謝無限で

真理を学び実践します

関村 朱美（愛知県）

生長の家の根本真理と「生長の家社会事業団」設立の意義についてのお話に、心洗われ、大いなる使命を感じました。谷口雅春先生のご先見の明、愛国の思い、ご苦労等に唯々合掌の思いです。安東先生がおっしゃった「愛無限、感謝無限」とのお言葉を大切に、真理をしっかりと学び、三正行と先祖供養を実践してまいります。

御恩に報いる生き方をします

鎌倉 弘行（長野県）

谷口輝子先生の「感恩の心」のご文章は涙が出てきました。私は本当の恩返しができているのだろうか、既に多くの方が霊界にいらつしやいますので、供養をしていくことが大切であると感じました。『生命の實相』にかえること、「神想観」を徹底すること、先祖供養を行い、命のつながりを実感すること、日本が祖国と呼べる本来の形にすること等を学んだ大変有意義な二日間でした。

魂の入った「行」を実践します

小津 博英（三重県）

この二日間を通じて、荒んでいた自分の心が浄化されていくのを強く感じました。私は、「行ずることを目的」として行ずる傾向があり、そこをしっかりと正していただいたのが、今回の講座であっ

たと思っております。

再度聖典の拝

読をしつかりと

行い、魂の入っ

た「行」を行っ

ていきます。日

常に埋没しそ

う自分を正して

いく意味にお

いても、松阪の同志の皆様と連絡をとりな

がら、この御教えに触れさせていただ

いた御恩に報いたいと考えております。

神想観、聖經読誦につとめます

A・K（京都府）

「神様と心が離れていることがあらゆる問題の根本である」とのお話や、安東先生がおっしゃった「神想観をするにも、神とは何か」ということを理解して実修しないといけない」とのお言葉が心に響きました。

一日一ページでも聖典を読み、短い時間でも神想観と聖經読誦を行って、人生を光明化していきたいと思えました。

愛を行わず講師として立つ

目時 好雄（東京都）

講師の申請をさせていただき、無事講師の委嘱状をいただくことが出来ました。有難く、また嬉しく思います。今後は『生命の實相』を読み込み、学び、理解を深めたいと思います。

また、本講座の名称に「実践」とあるとおり、神想観、先祖供養、聖典拝読の実践をしつかりと行い、一日一善の愛行も心がけていきたいです。



熱気あふれる「全体研修・質疑応答」

【税務上の特典】生長の家社会事業団への寄付は、税制上の優遇措置（税額控除等）の対象となります。

五つの事業を支える奉賛者605名御芳名

これまでご献資下さった方々の御芳名を謹んで掲載し、深甚の感謝を捧げさせていただきます。

生長の家のみ教えを正しく護り伝えるために！！

1口33万円の特別献資に

ご協力ください！！（分割可）

＜当事業団が行っている五つの創立記念事業＞

- ①聖典『生命の實相』、聖經『甘露の法雨』を永遠に護り抜く
- ②谷口雅春先生報恩全国練成会の開催
- ③「生長の家教義」研修講座と青少年練成会の全国展開
- ④「児童養護施設生長の家神の国寮」の運営
- ⑤「谷口雅春先生記念図書資料館」の充実拡大

— これらの事業は皆様の尊いご献資で支えられています —

今から78年前の昭和20年、敗戦によって希望を失った国民に対し、谷口雅春先生は日本再建のための一大政策「生長の家社会事業団の設立」を発表されました。それは立教以来の個人の魂の救済、病気の神癒、人生の苦難の解決という個の救済運動とともに、それを超えて国家救済、世界救済をめざすという一大構想でした。

そして、これら施策の遂行をなしとげるため谷口雅春先生は、聖典『生命の實相』、聖經『甘露の法雨』等の著作権を「生長の家社会事業団」へ基本財産として寄付されたのです。

このことは聖典『生命の實相』、聖經『甘露の法雨』に基づき正しい生長の家教義の久遠の護持とその普及を当法人に託されたことを意味します。

私達、生長の家社会事業団は、この谷口雅春先生の教えと願いを大きく発展させ、正しい「生長の家」を次世代につなぐため、皆様にご寄付の協力を仰ぐ次第です。

（同封のご寄付の申込用紙をご参照ください）

「谷口雅春先生記念図書資料館」行事案内

◇ 神示祭 (11時～)

1月6日、11日、15日、25日、2月9日

龍宮住吉本宮社殿にて

◇ 『真理』勉強会

1月6日(土)、2月10日(土)

第1土曜日 13時～15時半

指導：熊本司講師 (元本部講師)

注：新装新版『真理』第2、3巻



◇ 『生命の實相』輪読会

1月22日(月)、2月22日(木) (毎月22日13時半～15時半)

指導：久保文剛講師 (元本部講師)

新編第15巻(頭注版第8巻) 観行篇

◇ 定期一般開館日 (原則第1・3木曜日 11時～15時)

1月11日・18日、2月8日・15日

◇ 古事記神話紙芝居実践勉強会

2月12日(月・振替) (新教連、13時半～15時半)

読者の皆様から寄せられた「よろこびの体験」

★10月に息子が腎結石の手術をいたしました。神癒・聖經供養祈願で祈っていただき、お陰さまでスムーズに手術を終えてとても元気になり、数日後には仕事に戻り、精を出して明るく頑張っております。営業職ですが、これが天職だと言って毎日が充実しているようです。感謝申し上げます。(富山県・女性)

★今から7年前に左膝を痛み、3カ月たっても良くならないため整形外科で診てもらったところ、「膝が変形しています」と言われました。歩くことは出来るものの正座ができず、絶対良くなると信じて令和4年から始めた聖經『甘露の法雨』の二百巻読誦で、何事もなかったかのように膝の痛みが消えました。また次の二百巻に向けて読誦いたします。目標は千巻です。(富山県・男性)

感想をお寄せください！！

「躍進する生長の家社会事業団」をお読みいただいた感想を、FAX又は右のQRコードでお寄せください。

FAX：042-843-0076



1月の行事日程

日程	行事	時間	場所
1(月)	歳旦祭	10時半～	道場
6(土)	梅の花の神示・大和の國の神示祭 『真理』勉強会(熊本司講師)	11時～ 13時半～	社殿 図書館
11(木)	聲字即實相の神示祭	11時～	社殿
15(月)	完成の燈臺の神示祭	11時～	社殿
21(日)	物語者 眞影 先祖供養祭	11時～	道場
22(月)	谷口雅春先生謝恩祭 『生命の實相』輪読会	11時～ 13時半～	社殿 図書館
25(木)	自然流通の神示祭	11時～	社殿

2月の行事日程

日程	行事	時間	場所
1(木)	月始め感謝祭 聖使命奉賛会感謝奉納祭	10時半～	道場
2(金)	第7回谷口雅春先生報恩 全国練成会	開会13時	道場
4(日)		閉会15時半	
9(金)	上求菩提・下化衆生の神示祭	11時～	社殿
10(土)	『真理』勉強会(熊本司講師)	13時半～	図書館
22(木)	谷口雅春先生謝恩祭 『生命の實相』輪読会	11時～ 13時半～	社殿 図書館

「場所」欄の「道場」は全国練成道場、「図書館」は図書資料館、「社殿」は同屋上の龍宮住吉本宮社殿です。どなたでも自由に参加できます。

住吉大神の祝福燦々と降り注ぎ給う
「神癒・聖經供養」祈願
問題解決、神癒の体験続々と！

神様の祝福に包まれた幸福人生を招く
「聖使命奉賛会」(月額一口千円)
にご入会ください。



「繁栄と幸福を招く先祖供養」「人間神の子」「感謝は全てを癒す」の三講話を収録！(お申し込みは当法人まで)

安東巖先生、高倉俊治先生の
全国練成会講話筆録集

だんらん
団欒のときには楽しくすることが一つの仕事である。家庭の団欒が忘れられているがために、妻が不平をいったり、家族が病気になったり、良人が危険の淵に近づいて行くことも考えねばならぬ。(新編『生命の實相』第59巻 幸福篇 13～14頁)